

# 思い出に残る夏を

健全育成シリーズ (37)

——夏休みを前に——

「夏休み、どうする?」

「おたくは、どうするの?」

これは、この春保育園を卒園し

小学校に入学して三ヶ月たったお

母さんの会話です。

四十日近くの夏休みを前にして

よく聞く会話のひとこまです。

たしかに、初めて小学校へ入学

させたお母さんにとっては悩みの

たねになることの一つでしょう。

海も良い。遊園地へ行くのも良

い。でもそう毎日は出来ないこと

です。

数年前のことですが、小学生が

自転車で日本を横断しようとして

いることが、テレビや新聞紙上で

大きくとりあげられたことがあります。

これは、ただ珍しいとい

うことだけでなく、世間を「はつ」

とさせる出来事でした。

なぜでしょうか。ひとことで言

うと、現代っ子にあまりにも欠けて

いる「子どもらしい大胆な冒険心」

にあつたのではないかでしょう。

「この交通戦争と言われる時代に

よく親が承知したものだね。」

「子どもの言うことに親が折れた

のかしら……」

などと、子どもの行為とともに親

の決断にもさまざまな賞賛や意見

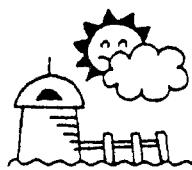
が寄せられたようでした。

子どもの生活の中から

夏休み中だから出来ることを見

ていません。

この点がいたずらは違います。



健全育成シリーズ (37)

——夏休みを前に——

いざ実行させようと思うとなかなか

か大変なことです。

そこで、子どもたちの、あそび

やいたずらに目を向けて見たらど

うでしょうか。

あそびが子どもたちの発達にとって

不可欠なものであることは、わた

したち大人は知っています。

そして、さまざまな研究もされ

ています。

けれども、いたずらはあまり研

究されません。ましてやいたずら

は、一般的に自慢にはならず、人間

の裏舞台のように扱われています。

あそびもいたずらも共通点があ

ります。「〇〇をしたい」という

目標はあっても「〇〇せねばならぬ」という目標はありません。

けれども、あそびは結果として

許容しながら、他人の立場、その

心情、社会的かかわりなどをいき

いきと感知、認識させていくこと

は、大人が子どもに負っている教

育の一要素だと思います。

少しは脱線しても良い。とにかく

思い出に残るような夏を。子ども

にとって、あそびは何よりの学

習なのですから……。

青少年を非行から守る

全国強調月間

明るく健康新家庭づくり研究会

日時

7月7日(金)

午後1時30分

会場

富士女性センター

講師

荒牧重人先生  
(山梨学院大学講師)

演題

子どもの権利条約と

主催

都留市青少年総合対策本部  
大人の役割

演題

子どもの欲求に耳を傾けること

主催

都留市青少年総合対策本部  
境づくりに努める

演題

子どもを孤独に追いやらない

主催

都留市青少年総合対策本部  
社会人が連係して、健全な環

演題

とはよいが、限度を考える

主催

都留市青少年総合対策本部  
人間関係が生まれてきたのではない

演題

ための努力を忘れない

主催

都留市青少年総合対策本部  
この夏は、子どもたちのあそび

演題

やいたずらを大きく見守りながら

主催

都留市青少年総合対策本部  
思いきり伸び伸びるまわせたら

演題

どうでしようか。

そして、ある程度のいたずらを

許容しながら、他人の立場、その

心情、社会的かかわりなどをいき

いきと感知、認識させていくこと

は、大人が子どもに負っている教

育の一要素だと思います。

少しは脱線しても良い。とにかく

思い出に残るような夏を。子ども

にとって、あそびは何よりも

大切なことです。



## 「社会を明るくする運動」作文コンテスト

主 催 社会を明るくする運動山梨県実施委員会  
対 象 小学校、中学校に在学する生徒  
テ マ 『犯罪や非行のない明るい社会を築くために思うこと、考えること』  
原稿用紙 400字詰め5枚程度  
表 彰 優秀作品30編には、実施委員長賞など  
の表彰をし、そのうち優秀な作品8編を、  
法務大臣賞ほかの表彰の候補作品として  
法務省に推薦します。  
応募先 締切 8月15日  
市教育委員会社会教育課